

ひまわりの里基本計画2024

北竜町

2024年12月

構成（目次）

1. ひまわりの里基本計画2024の策定にあたって

- これまでの経緯や背景
- 大事にしたい3つの視点

2. 北竜町を取り巻く観光の現状とまちの未来に対する意見や思い

- 観光客の現状や課題
- まちの未来に対する意見など
- 北竜町ブランドとひまわりの里の役割
- 未来のまちづくりにおける本計画の重要性

3. ひまわりの里の目指す姿とまちづくり

- まち全体で取り組む必要性とその形
- ひまわりの里の今後のイメージと「観光交流センター（仮称）」の整備計画
- ひまわりの里の“持続・発展システム”の提案

4. 未来へ続く「ひまわりの里」

【巻末】 資料1～5

ひまわりの里基本計画2024 の策定にあたって

1

- これまでの経緯や背景
- 大事にしたい3つの視点

これまでの経緯や背景

2020年3月、『ひまわりの里基本計画』を策定。その後、コロナ禍で2年連続“ひまわりまつり”が中止になるなど、社会環境の急激な変化や、基本計画の内容についての理解が、必ずしも順調に進まなかった。

2022年度から継続的に、「ひまわりの里活性化協議会」で、ひまわりの里の来訪者の意向調査や、アクティビティに関するネット調査等を行い、その結果の検討や、エリア全体のあり方等に関する議論を重ねてきた。

2023年11月、同協議会において、これまでの検討結果や今後の方向性について、一旦、取りまとめを行った。

2024年7月、同協議会から町に対して、「観光交流センター（仮称）」の整備の具体的な方向性や、駐車場の有料化についての答申が提出され、町から町議会に説明がなされた。

町として、既存の『ひまわりの里基本計画』を、新たな視点で全面的に見直し、『ひまわりの里基本計画2024』（案）として策定し、町議会や同協議会、町民に提示することとした。

大事にしたい3つの視点

～ これまでの議論を踏まえた柱となる考え方 ～

1

人が出会い、 人と人がつながっていく

- 子どもから高齢者まで、町民の誰もが気軽に集まってくる、居場所や役割がある
- 観光客やインターンが、来たくなるような魅力に溢れ、どんどん訪れる、リピーターも増えていく
- まちに関わる人、まちを応援する人など、いわゆる「関係人口」が増え、顔が見える人たちの輪や、つながりの射程が広がっていく

2

価値が生まれ、 未来につづいていく

- 「食べる」「見る」「つくる」「遊ぶ」「学ぶ」など、ここでしか得られない体験が、多様な価値になっている
- 価値の創造や、価値の多様さが地域経済の発展や、循環につながっている
- 農業などまちの産業との協業や、新たな商品やサービスなどの創造により、「しごとが生まれ、しごとが続くまち」として、賑わっていく

3

まちのシンボルとして、 世界に発信していく

- 「ひまわりの里」が、まちで暮らす人や、まちに関わる人たちの、“アイデンティティ”になっている
- “ひまわりのまち北竜町”のブランドを構築・共有することで、タウンブランドの醸成を図っていく
- 新しい観光交流センターが、まちのシンボルになり、ここから世界に発信することで、人とのつながり、価値の創造につなげていく

北竜町を取り巻く観光の現状と まちの未来に対する意見や思い

2

■ 観光客の現状や課題

■ まちの未来に対する
意見など

■ 北竜町ブランドとひまわり
の里の役割

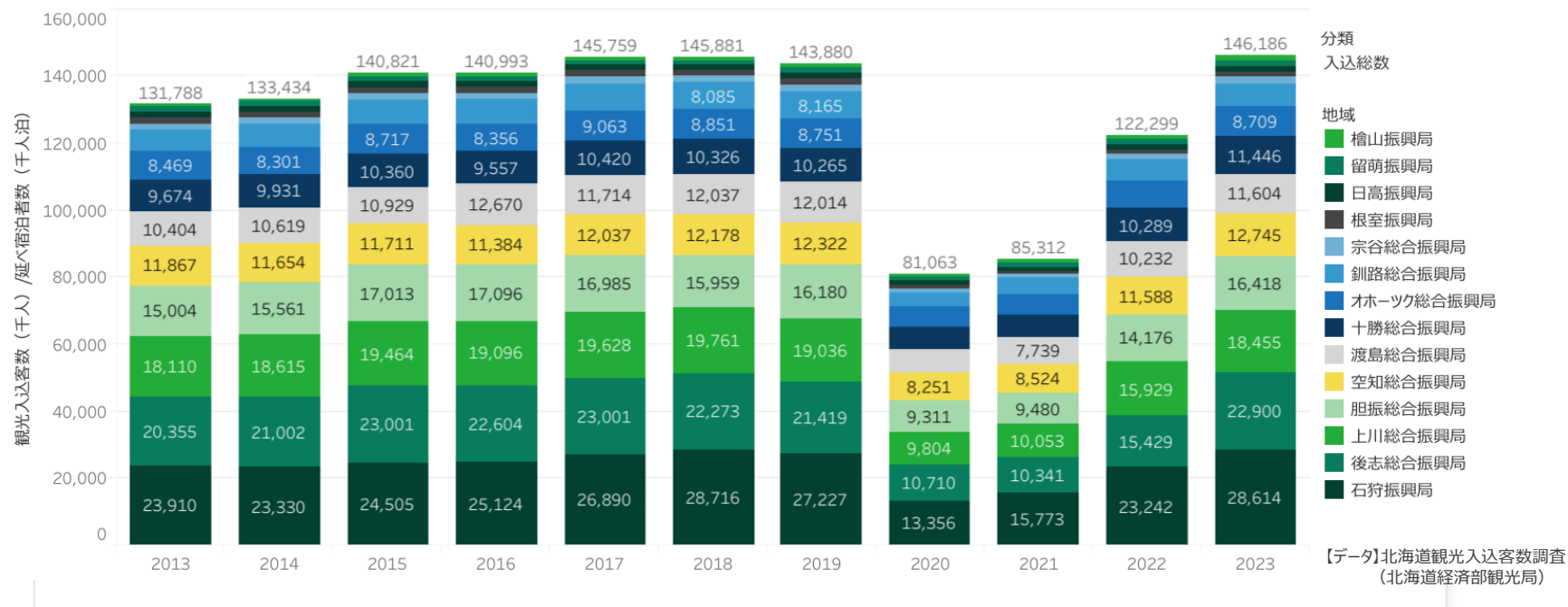
■ 未来のまちづくりにおける
本計画の重要性



観光客の現状や課題

道内及び北竜町の観光入込客等の状況

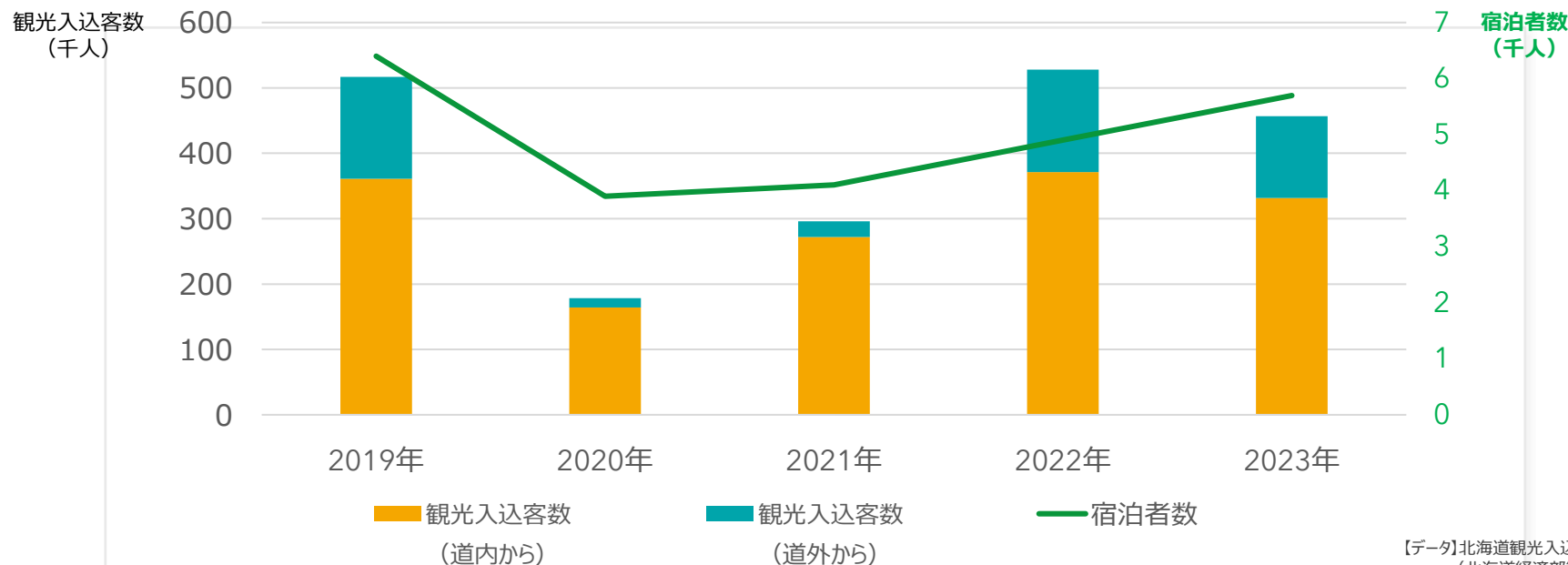
北海道（圏域別）の観光入込客の状況



- ✓ 2023年度の北海道の観光入込客数（延べ人数）は約1億4,600万人となり、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことなどから、前年度と比較すると約2割伸び、過去最高レベルとなった。
- ✓ うち、北竜町が属する空知総合振興局管内の観光入込客数は約1,270万人で、コロナ禍の落ち込みから復活し、同様に過去最高レベルとなった。

道内及び北竜町の観光入込客等の状況

北竜町の観光入込客・宿泊者数の状況



- ✓ 北竜町の観光入込客数（延べ人数）は、新型コロナウイルス感染症の影響で「ひまわりまつり」が中止になった2020年、2021年の大幅な減少から復活し、2022年には例年並みの水準に戻った。
- ✓ 2023年は、ひまわりまつり期間中に雨天が多かったために来訪者が伸び悩み、観光入込客の減少につながったと考えられる。
- ✓ 宿泊者数は、2020年を底にして、徐々に、回復（増加）傾向にある。

インターネット調査でわかった8つのヒント

新たな発見・課題・得られた知見・事実など

北竜町実施「インターネット調査」から
・実施期間:2024.7.26~8.1
・対象:関東圏、関西圏、札幌、旭川等

1 北竜町を知っている首都圏の人 **11%**

伸びしろが
期待できる

3 本州で北竜町を知っている人は、「旅行性向」
「移住検討率」「ふるさと納税検討率」が高い

アクティブ
な傾向

5 「ひまわりメロン」「ひまわりスイカ」よりも、
「ひまわりライス」の認知度が低い

喫緊の課題

7 道内からの来訪者は **若年層の割合が低い**

若者にとっての
魅力度を上げる

2 道内在住の **若年層の認知率が低い**

若者に知っ
てもらう

4 道内で北竜町を知っている人は、「ひまわりを起
点としたまちづくり」「ひまわり畑」を知っている

ひまわり
ブランド

6 道内で北竜町に来たことがある人 **47.5%**

リピートを
促す

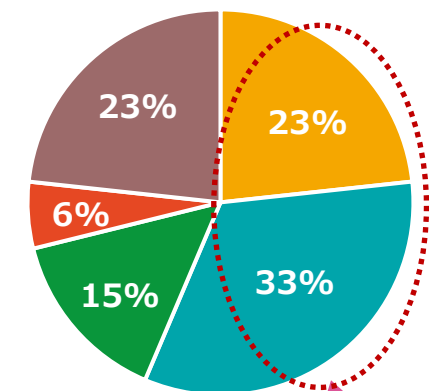
8 北竜町を“深く知りたい”と思うキーワードは、
「ひまわりメロン・スイカ」「ひまわり畑」「食べ物
はいのちのスローガンによる食料生産」など

農産物や
農業の魅力

2024年「ひまわりまつり」来訪者アンケート

～“迷路参加者1,800人”の回答結果から読み取る 今後の取組の方向性～

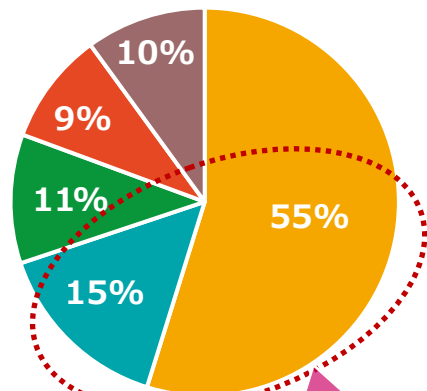
道外からの来訪者は
どこから来ているのか



- 東京都
- 東京以外の首都圏
- 京阪神
- 愛知県
- その他

半数以上が
東京など
首都圏から

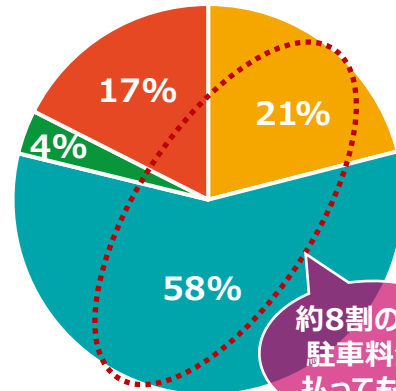
道内からの来訪者は
どこから来ているのか



- 札幌市
- 札幌周辺
- 旭川市
- 空知管内など近隣
- その他道内

2/3以上が
札幌と
札幌周辺から

もし「駐車料金を払う」
ことになった場合の
気持ちを教えてください



- 駐車料を払っても必ず来たい
- 駐車料を払ってもたぶん来る
- 駐車料を払うなら来たいとは思わない
- 駐車料を払うならたぶん来ない

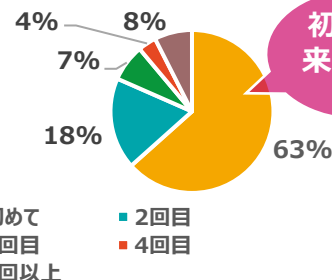
約8割の人が
駐車料金を
払っても来る

来訪者の年齢構成



若者や
子育て世代
が多い

何回目の訪問なのか



初めての
来訪者が
2/3

ひまわりまつりに来る前に、
どこかに立ち寄りましたか？



最初にここに来た**66%**

この後に、どこかに立ち寄る
予定がありますか？



どこかに行く予定**62%**

北竜町が「お米」の産地で
あることを知っていましたか？



知っていた**41%**

約6割の
人には知られ
ていない

北竜町の「お米」を知っている人に
そのイメージを聞いてみると

- 美味しい**80%**
- 安全・安心など**61%**

特徴を
認知

大多数の感想（感動や応援する声が非常に多い）

- こんなに広いひまわり畑を見て感動した、とても綺麗で涙が出た、想像以上、圧巻、人生で見た中で一番素晴らしいひまわりだ
- ひまわりソフトがおいしかった、いつも楽しみにしている
- スタンプラリーは、子どもが楽しんでた
- 迷路が楽しかった、おもしろかった
- おソバや、かき氷がおいしかった
- 全体の雰囲気明るかった
- ここでしかできない体験がたくさんあった
- 中学生が世界のひまわり作りに携わっているのが良かった、感銘を受けた
- 何度訪れても見事、夏を感じることができるので、毎年楽しみにしている
- 受付の人たちの対応が優しく、癒やされた
- 富良野のラベンダーより壮観
- 世界のひまわりは、色や大きさなど、様々な品種があり、見れて良かった、面白かった
- よく手入れがされており、感心する
- ところどころに写真スポットがあるのが良かった
- ひまわりスイカは美味しいので、買って良かった
- 町民が一丸となって取り組んでいることに感動した
- 本州では体験できない、圧巻のスケール
- 雨の日の足場がきちんと整備されており、有り難かった
- 北竜町とひまわりをふるさと納税で知り、ずっと来てみたかった
- 道の駅が近くて良い
- 顔はめパネルがあり、ニコニコ、ほっこりした
- 子どもたちを「ひまわりライス」で育てている（東京在住）
- 駐車料金でなく、寄付金をお願いする方法は初めてだが、素晴らしいと思う
- この時期になると、北竜町に来たくるので、ぜひ継続してほしい
- 町民の皆さんの協力あっての維持が大変だと思うが、これからも末永く見られるといいなと、心から思った
- 函館、札幌、小樽、美瑛と観光で廻ってきたが、ここがベスト1
- 募金をしたら、ひまわりの種をもらえて嬉しかった
- 30年ぶりに来たら、規模も大きくなっており、とても懐かしく楽しかった
- 駐車場の誘導員の人々が、キビキビしていて良かった

ひまわり畑の雄大さや、
想像を超える美しさに
感動している
という声やコメントが
非常に多い

町民ぐるみでひまわり畑
を管理し、ひまわりまつりを続けて
いることに、感動・感謝していることが、
リピーターにつながっている

中学生の
世界のひまわり

受付・案内の人
駐車場係など

まつり全体の
雰囲気が
あたたかい

今のひまわりまつりが
提供している価値が、
**再訪意向と
興味・関心の強さに
つながっている**

改善要望や意見など

- トイレを、もう少しキレイにしてみたい
- 入場料を取るのなら、暑いので観光センターに冷房を考えるべき
- 売店の内容が微妙なので、ファーム富田を参考にして、強みを活かした商品を増やせばいいのでは、食が大事
- バスの本数を増やしてほしい
- 有料になったら、迷路には入らない
- 自転車の貸し出しがなくて残念だった
- 協力金は、出口でアピールした方が、払う気持ちになりやすいのでは
- トイレにクモの巣やごみがあったので、もう少し清潔さがあればいい
- 蜂が入ってきて怖かった
- とても暑いので、観光センター以外で屋根のある場所がほしい
- 駐車料を取るのなら、観光センターの割引券、米の引換券があればいい
- クーリングシェルターがほしい
- 休憩できるベンチがあればいい
- 高くてもここでしか食べられない料理や食材を提供してほしい
- トイレの場所が、わかりにくかった
- 屋台がしょぼい
- 特産品の販売などがあればいい
- 日陰の休憩所を増やしてほしい
- 開花状況のお知らせをしてほしい
- カモの池の水を、もう少しきれいにしてほしい
- 道路から右折で入れず困ったので、ちゃんと誘導してほしい
- 飲食店を覗いたが購入意欲が湧かなかった
- ひまわり製品を作って、販売したほうがいい

- せっかく時間をかけてきているので、どこにでもあるメニューだけでは残念
- ひまわり畑の奥に、休憩スペースがほしい
- キッチンカーや、カフェスペースなど、快適でおしゃれな空間があれば、滞在時間も延びる
- もっと「ひまわりスイカ」をアピールすればいい
- 売店が閉まるのが少し早い
- フォトスポットに、スタンドがあればいい
- ご飯を食べる所が古い印象で残念、新しくリニューアルしたほうがいい
- メニューが古い
- 雑貨屋さんの品目が少ない
- ひまわりの種や油を使った料理や試食、それに即した催しがあると、より身近になると思う
- ひまわり関連のお土産があればいい
- 迷路の足場を、もっと平らにしてほしい
- トイレをもっと綺麗に改善してほしい
- 女性用トイレを、増設してほしい
- 地面が凸凹で歩きにくい
- 食べ物が少し高い
- お店がもっとあると、滞在時間が増える
- 飲食ブースが、もっと充実するといい
- 飲食やお土産が、充実しているともっと良い
- 駐車場が、もっと台数が置けたらいい
- 売店は、開園中は開いてほしい
- 持って帰って記念になるものがあればいい
- ひまわり畑と道の駅をつなぐ、無料のシャトルバスがあったら便利
- 暑いので、休憩スペースがほしい
- 高台を、もう少し高くしてほしい
- 写真が高すぎる
- ひまわりが垂れていない、見頃を教えてください

- 電子決済ができなかったので困った
- 日傘のレンタルがあればいい
- 椅子やベンチなど、休む場所があればいい
- 外国人にもわかりやすい表記や看板がいる
- 日陰のテントや、休憩所などがあると嬉しい
- 募金をしたら、麦わら帽子をもらえると、雰囲気を楽しめる
- 案内の看板が小さく、わかりづかった
- 日傘、日焼け止め、日傘などを売ればいい
- インスタで、毎日の様子を載せてほしい
- もう少し、子どもが遊ぶ場所があればいい
- お土産にあまりいいモノがないので、お土産の開発をして利益を出せばいい
- 迷路の入口辺りで、飲み物を買えるといい
- キッチンカーがあると楽しそう
- 「ひまわりライス」のおにぎりを、町内のコンビニとかでも、たくさん売ってほしい
- 暑いので、あずまやが所々にあればいい
- 町内の店で使えるクーポン券があればいい
- ひまわりの近くで、お茶などできると楽しそう
- 全部の店でQRコード決済できると助かる
- ひまわりを使った食べ物があれば面白い
- 協力金の額に応じて、渡すアイテムに選択肢があればいい
- 運転できるバギーや、カートがあれば楽しそう
- まつりの最終日まで見頃の場所があればいい
- 直売所みたいに、名産品があれば良かった

施設に対する意見としては、トイレや観光センターに関するものが多い

日陰の場所、特産物（飲食、お土産）の要望も強い



まちの未来に対する意見など

北竜町の未来をつくる 子どもや若い世代の意見や思い ～そこから読み取る「まちの未来」への示唆～

01

中学生の思い

- 中学生ワークショップ
- 対象者:10名
- 実施:8月19日

02

高校生の思い

- 高校生インタビュー
- 対象者:4名
- 実施:8月19・20日

03

若者の思い

- 役場若手職員
- 対象者:11名
- 実施:8月～10月

01

中学生の思い

共通している認識や思い

- ＋「ひまわり」「観光センター」「北竜温泉」は、町外から人が集まる場所として、町外から評価され、また、自分たちも評価している
- ＋まちの人がみんな良い人で、親切だ
- ＋「お金」について独特の感覚や関心がある
- －買い物、遊べる場所、交通に不満がある
- －建物などインフラが見劣りする（古いと感じている）

「まちの未来」への示唆

- ✓ まちの中心的な価値となっている「ひまわり」のイメージをブランド化し、それを共有することで、“タウンプライド”を醸成していく
- ✓ 町民全体が享受可能で、かつ、発展を感じ、日常の暮らしの質が向上する領域への投資や活動を、新たに行っていく
- ✓ その際には、他のまちと比べて“新しい”“進んでいる”“面白い”という感覚を重視し、変化とその意義を、共有していく

02

高校生の思い

共通している認識や思い

- 「ひまわりまつり」以外、町外の人を連れて行ける場所や、遊びに行ける場所がない
- + まちの人は優しく、あたたかい、同級生は家族のような存在、一方で、関係性が固定化すると、面倒と感じることもある
- 「ひまわりまつり」は、何ら代り映えしない
- 朝晩の通学の、交通の便がわるい
- 町外でないと、アルバイトすることができない

「まちの未来」への示唆

- ✓ 家族でも学校でもない、第3の居場所（余白の時間や空間）で、町外の人との交流や刺激を得ることが、子どもたちの生きる力、未来を切り拓く力につながっていく
- ✓ 「ひまわりまつり」だけでなく、「ひまわり」を軸とした、新たな商品やビジネスなどを、他者と自分たちでつくり発信すること、ビジネスにつながることで、まちで暮らす高校生のタウンプライドの醸成と、北竜町の新たな価値の創造が、図られていく

03

若者の思い

共通している認識や思い

- 自分たちの今後、農家の未来、風景、人の良さ、ひまわりの里・まつり、食などを未来につなげていけるのか、などが心配
- + 新たな動きを形にするためには「人」が必要、特に、外部の専門家や、民間企業など
- + 「人」や「しごと」を増やす取組に関わりたい
- + アイデアはたくさんある、キーワードは、「ひまわり」（里のエリア全体、新商品、体験、SNS、一年中、子どもの参加、しくみづくりなど）

「まちの未来」への示唆

- ✓ 町外の多様な人（専門家、大学、民間企業）と、町民や子どもたちが交流し、創造する場（空間、場所、しくみ）が必要
- ✓ 新たな経済（お金）や、しごとを生み出し、子どもたちが、北竜町でしか得られないような、学びや、“生き伸びる力”が身につく、「ラボ」のような機能の創設が、望ましい
- ✓ これらを踏まえ、まちぐるみで、自立と、寛容性を両立させた、新たなしくみをつくっていく



北竜町ブランドとひまわりの里の役割

現状

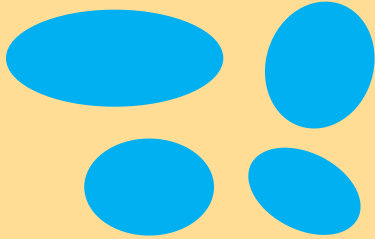
北竜町やひまわりの里に対する
町民の思い（愛やプライド）と、
これまで積み上げてきた歴史（さまざまな努力）が、
十分に（明確、かつ、強力に）伝わっていない

ポテンシャルは
大きい

では、目立つ宣伝や、ウケる内容を
発信すればいいのか？

軸なし「盛り上げ」重視の発信

軸がないので、それぞれの発信がばらばら
= ばらばらの水たまり



しばらく時間が経つと



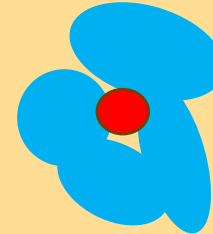
干からびて跡形もなくなる



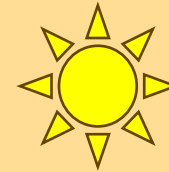
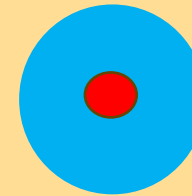
ブランド資産は
何も残っていない

軸あり「ブランド構築」重視の発信

バリエーションがありつつ軸を中心とした発信
= 池のできはじめ



しばらく時間が経つと

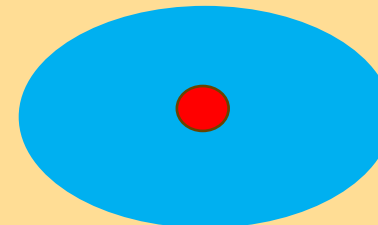


軸を中心に小さな池ができる



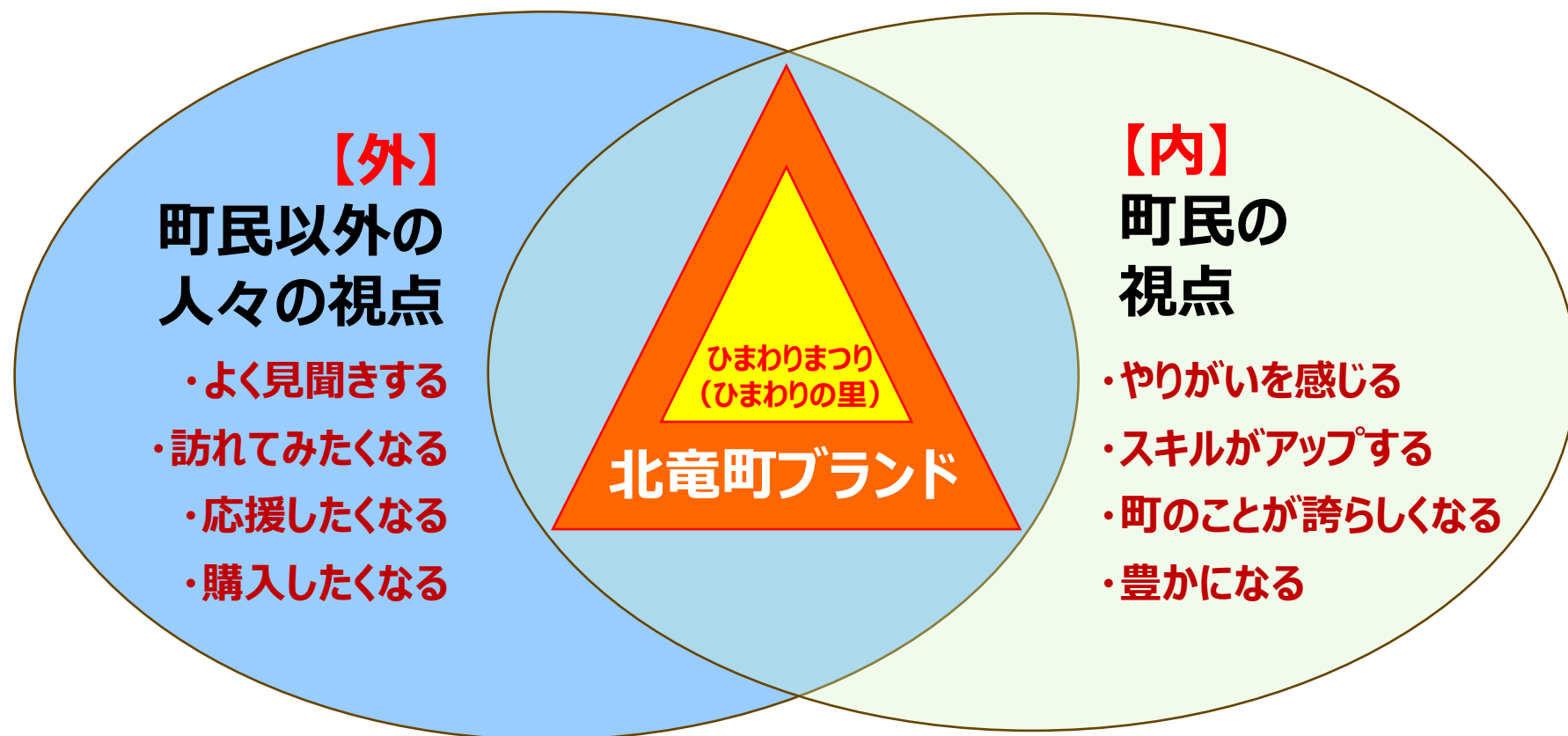
さらに時を重ねると

ブランドという軸を中心に資産がたまった
「池」が少しずつ大きくなる



北竜町のブランド価値のコアである
「ひまわりまつり（ひまわりの里）」の
ブランドを構築し、発信していく

ブランド構築に欠かせない二つの視点



アンケート結果から読み取れるメッセージ（世代年齢問わず）

皆で育てているひまわりは素晴らしい！
だからこそ、ひまわりまつりで経験できることをもっと楽しみたい
＝「ひまわりまつり（ひまわりの里）」のブランドを強化する

ここが良い！

- ひまわり畑の雄大さ・美しさに感動
- 町民ぐるみでのひまわりまつり（中学生・まつり全体の雰囲気）が良い

ここを改善してほしい！もっと楽しくできる！

- 居住性 → ゆっくりできて楽しい環境に
暑さ対策（日陰・冷房）
休憩所
きれいなトイレ
施設が古い
- 食べ物 → 食べて楽しい
メニューが古い・「ならでは」のものが欲しい・高くても魅力あるもの
- 特産品・お土産 → 買って楽しい
ひまわり関連のお土産の充実
- わかりやすい看板表示・英語での案内 → わかって楽しい



北竜町の「ひまわりまつり（ひまわりの里）」が持つ「資産」を 「独自の価値」に変換するためには

二つの視点【内と外】を統合する

〈来訪者の視点〉

何らかの形で
「町」に
行きたくなる・
関わりたくなる
契機を増やす

〈町民の視点〉

自分たちが住む町で
楽しいこと・
便利なこと・
チャレンジなどが
できる領域を増やす

町民【内】と
来訪者【外】
の両者が
「あってほしい町
の姿」の土台づくり

- ✓ 新しい観光交流センターなど
ひまわりの里の魅力ある整備
- ✓ ひまわりまつりの魅力向上
(例:新たなお土産・特産品・
メニュー、ひまわり体験など)
- ✓ マーケティングに基づいたPR

ひまわりの里基本計画2024
で掲げる
今後の中心的な取組

- ✓ 新しい観光交流センターで新た
な価値やサービスを提供
- ✓ 子どもの学びや創造の場、誰も
がチャレンジできる「ラボ」機能
- ✓ 関係人口の入口、コラボの拠点
- ✓ ひまわりの里を町民の誇りに



未来のまちづくりにおける本計画の重要性

北竜町の主要な計画との関連性

北竜町総合計画

R1～R10（10年間）

【最上位計画:行政運営の総合的な指針】

これからのまちづくりに関する主要な計画

北竜町総合戦略

R7～R11（5年間）

※R6年度中に策定予定

北竜町ブランドマネジメント & プロモーション戦略

まちのブランドを
発信し交流人口
を増やし、関係
人口化する

ひまわりの里 基本計画2024

関係人口を
移住・定住に
つなげていく

北竜町版まちづくり インフラ環境計画（仮称）

快適な暮らしと
誰もが活躍
できるまちづくり

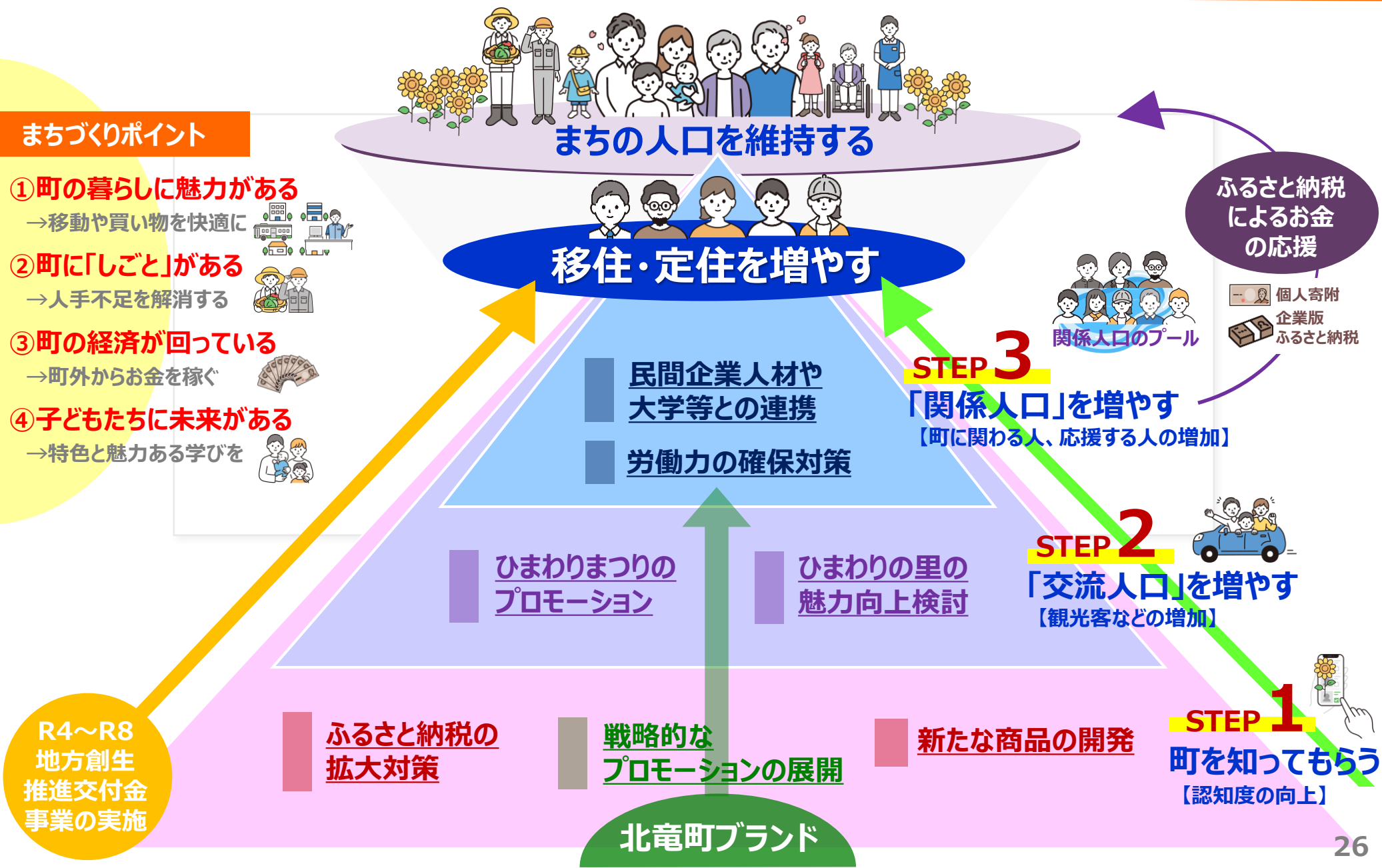
その他の各種計画

- 北竜町公共施設再配置計画
- 北竜町地域公共交通計画
- 北竜町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 北竜町地域防災計画
- 北竜町橋梁長寿命化修繕計画
- 北竜町舗装修繕計画
- 北竜町森林整備計画
- 北竜町過疎地域持続的発展市町村計画
- 北竜町子ども・子育て支援事業計画
- 北竜町特定事業主行動計画
- 北竜町国民保護計画

など

「未来につながるまちづくり」施策体系図

～「北竜町ブランド」を軸に移住・定住を増やすための戦略マップ～



交流人口から「関係人口」そして定住人口へ

交流人口

誰だか
名前は
わからない

- ・ 北竜町に観光（ひまわりまつりなど）で訪れる人
- ・ 北竜町の施設（北竜温泉、パークゴルフ場など）を、町外から来て利用する人
- ・ 北竜町で行われるイベントや大会等に参加するために、町外から参加する人 など

交流人口が入口
となり、その中から
関係人口化
していく

交流人口が
多ければ
多いほどよい

関係人口

顔が見える
関係

- ・ まちの中の活動や、しごとなどに、町外から、多様な形で関わる人
- ・ 北竜町に、継続的に関わっている人、具体的な応援をしている人
- ・ 北竜町に特別な思いや、愛着を持ち、何らかの形でつながっている人



関係人口のプール
を増やしていく

定住人口

北竜町の
町民

- ・ 北竜町に住んでいる（暮らしている）人（居住者・居住人口）
- ・ 他の地域から、北竜町に移り住んできた人（移住者）を含む

農業や建設業など
町内事業者の
人手不足の解消
にも寄与する

その中から移住・定住に
つながる人が増えていく

ひまわりの里基本計画2024は

北竜町のブランドの中心となる
“ひまわりの里”の
未来の姿や役割を共有し、
次代につなげていくための、
「道しるべ」です

北竜町ブランドの中心としての“ひまわりの里”

ひまわりの里の 目指す姿とまちづくり

3

まちの全体で取り組む
必要性とその形

ひまわりの里の今後のイ
メージと「観光交流セン
ター（仮称）」の整備計画

ひまわりの里の“持続・
発展システム”の提案



まち全体で取り組む必要性とその形

まち全体で取り組む必要性

1. 地域の持続可能性の向上と地域のアイデンティティの強化

→子どもなど町民が主体的に参加することで、北竜町に愛着を持ち、長期的に関わる意識が醸成されるとともに、地域の価値観や重要性が次の世代に受け継がれていく。

また、独自のアイデンティティが強化されることで、地域の魅力が増し、町外の人（来訪者や関係人口など）にアピールしやすくなる。

2. 多様な視点や高度な専門性の反映、自己発展力の向上

→幅広い年齢層や民間企業、専門家の参画により、多様な視点や専門性が集まることで、やりたいことが実現できるようになる。

また、新しいスキルや知識が培われることで、町民が自らの発展に貢献できる力が高まる。

3. まちの経済の活性化と適応力の向上

→コミュニティビジネスや、新たな商品・サービスが生まれたり、起業や雇用の機会などが創出される。

また、基幹産業である農産物の知名度向上や、購買につながる。

さらに、新たな観光産業や、デジタル技術の導入など、地域が変化する社会環境等に柔軟に対応できたり、新たな機会を見つけやすくなる。

まちの魅力
の向上

北竜町らしさ
＝北竜町ブランド

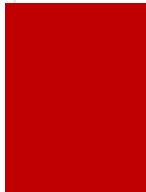
まち全体で取り組む必要性

“まち全体で取り組む形” のイメージ図

北竜ひまわりホールディングス（概念）

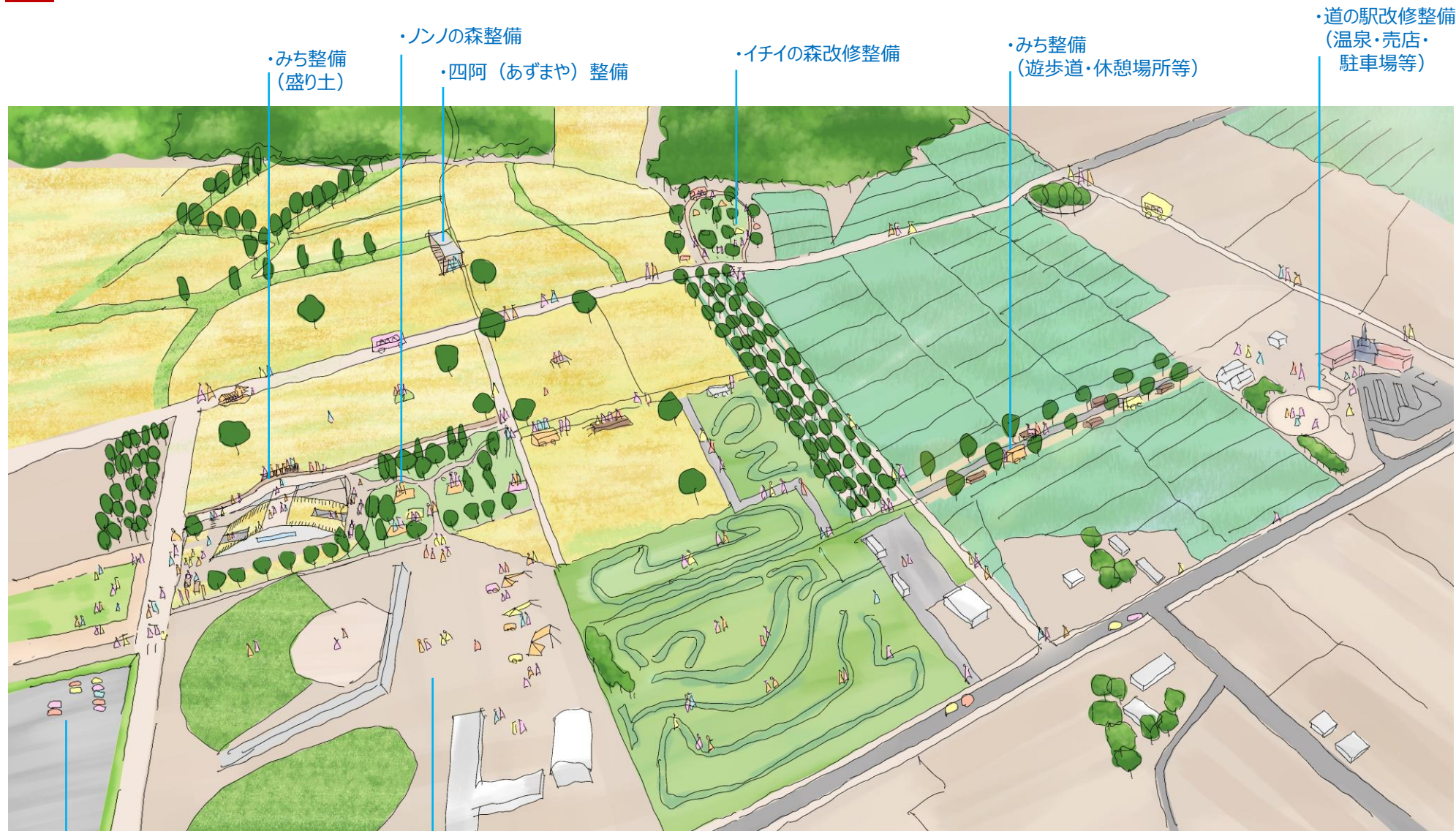
● CEO = ローカルデザイナー ● Office機能 = 北竜振興公社





ひまわりの里の今後のイメージと 「観光交流センター（仮称）」の整備計画

ひまわりの里の“今後のイメージ”



・現観光センター跡地活用
(撤去、駐車場整備等)

・中学校跡地等活用

(注) このパース図は、2024年4月開催の「ひまわりの里活性化協議会」に提出されたもので、「観光交流センター」(仮称)周辺部分は、その後の意見を踏まえ、変更しています。



観光交流センター（仮称）の整備計画

観光交流センター(仮称) 検討案

前回協議会(7/11)にてご議論頂いたA、B、C案のうち、C案を基本として頂いたご意見を基に修正していく方針となりました。

以下に頂いた主なご意見と対応方針を整理します。

C案に関する前回協議会(7/11)及びその後のヒアリングでの主なご意見

＜平面計画に関して＞

- 1) 搬入動線確保のため各ブースから直接外部にアクセスできるように配置を変更して欲しい。
→【対応方針】配置を修正。
- 2) 女子トイレの混雑が特に問題となるため、トイレの広さや箇所数を増やせないか。
→【対応方針】利用ピーク時に対応できる設備を設置した場合、それ以外の時期としては過大となる懸念があるため、周辺の既存トイレも含めて利用を促すこととした。
平面計画上可能であればなるべく面積を確保する。
- 3) 現観光センターでは、300席程度を用意しなんとか来訪者を受け入れている状態。新しい施設となつてより多くの人が訪れることを考えると、客席用の面積を広くできないか。
→【対応方針】面積の拡大は工事費に直結するため、コスト含めて要検討。
- 4) トイレとブースはなるべく離れていると良い。
→【対応方針】可能な限り対応。
- 5) ブース間の間仕切壁は可動（或いは取り外ししやすい壁）になっていると良い。
→【対応方針】建築基準法とも関係するため、基本設計の中で要検討。
- 6) 新たな体験創出のため、施設内からひまわり畑に抜けるトンネルを設けられないか。
→【対応方針】確保可能か検討。

＜設備に関して＞

- 1) 虫が入らないようにしたい。
→【対応方針】 開け放しにする窓には網戸を設けると共に、空調設備による室内環境のコントロールを基本として考える。
- 2) プースの利用方法は飲食となるか物販となるか分からないため、全てのプースで飲食に対応可能なように設備を備えていた方が良い。
→【対応方針】 基本設計の中で要検討。
※飲食用途の床面積が700m2を超えると消防法で必要となる設備が増えるため要確認。

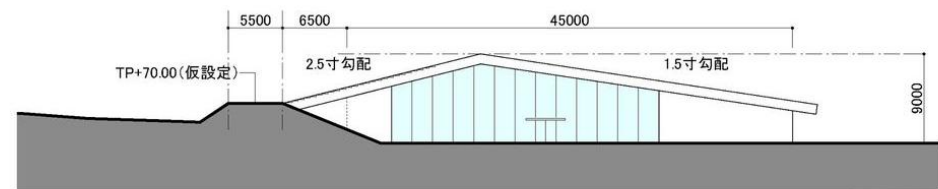
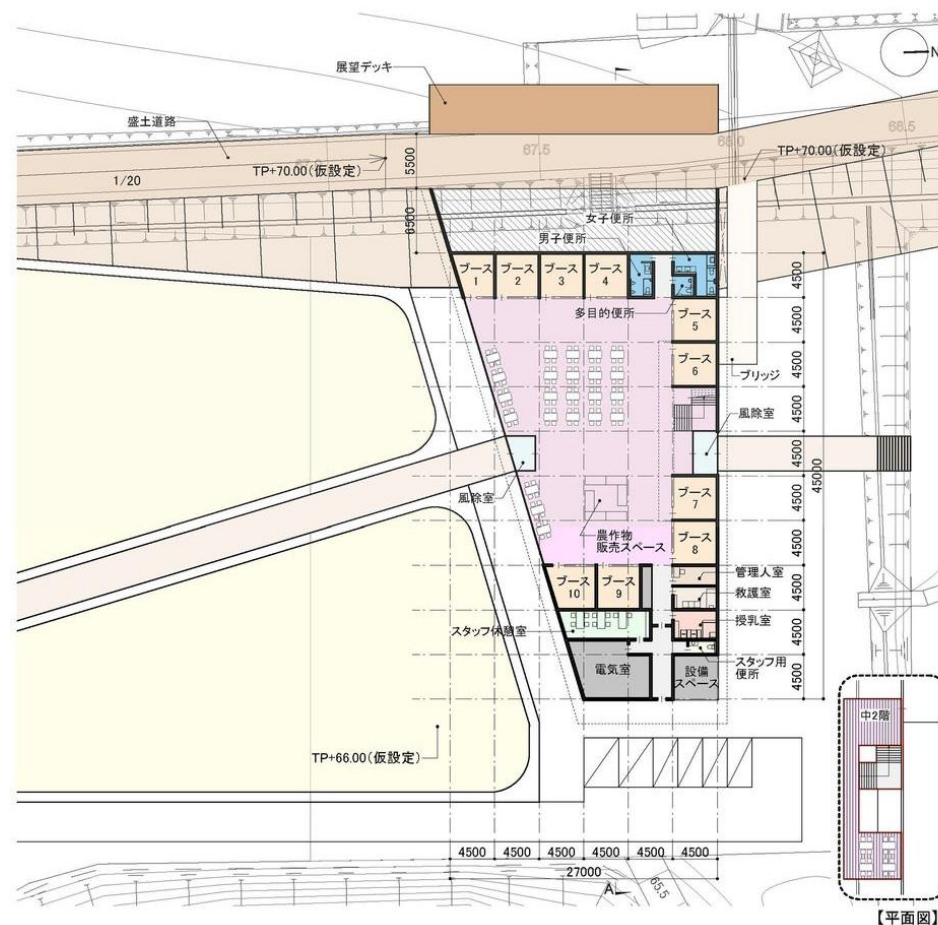
＜積雪に関して＞

- 1) 屋根と道路が連続するため、西風により屋根西側には通常より高く雪が積もる可能性がある。
西風による圧雪も考慮した方がよい。
→【対応方針】基本設計の中で要検討。

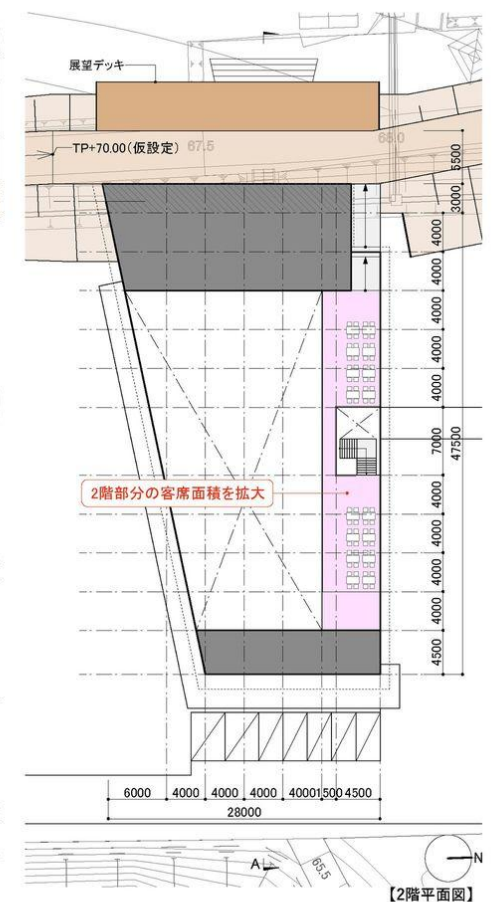
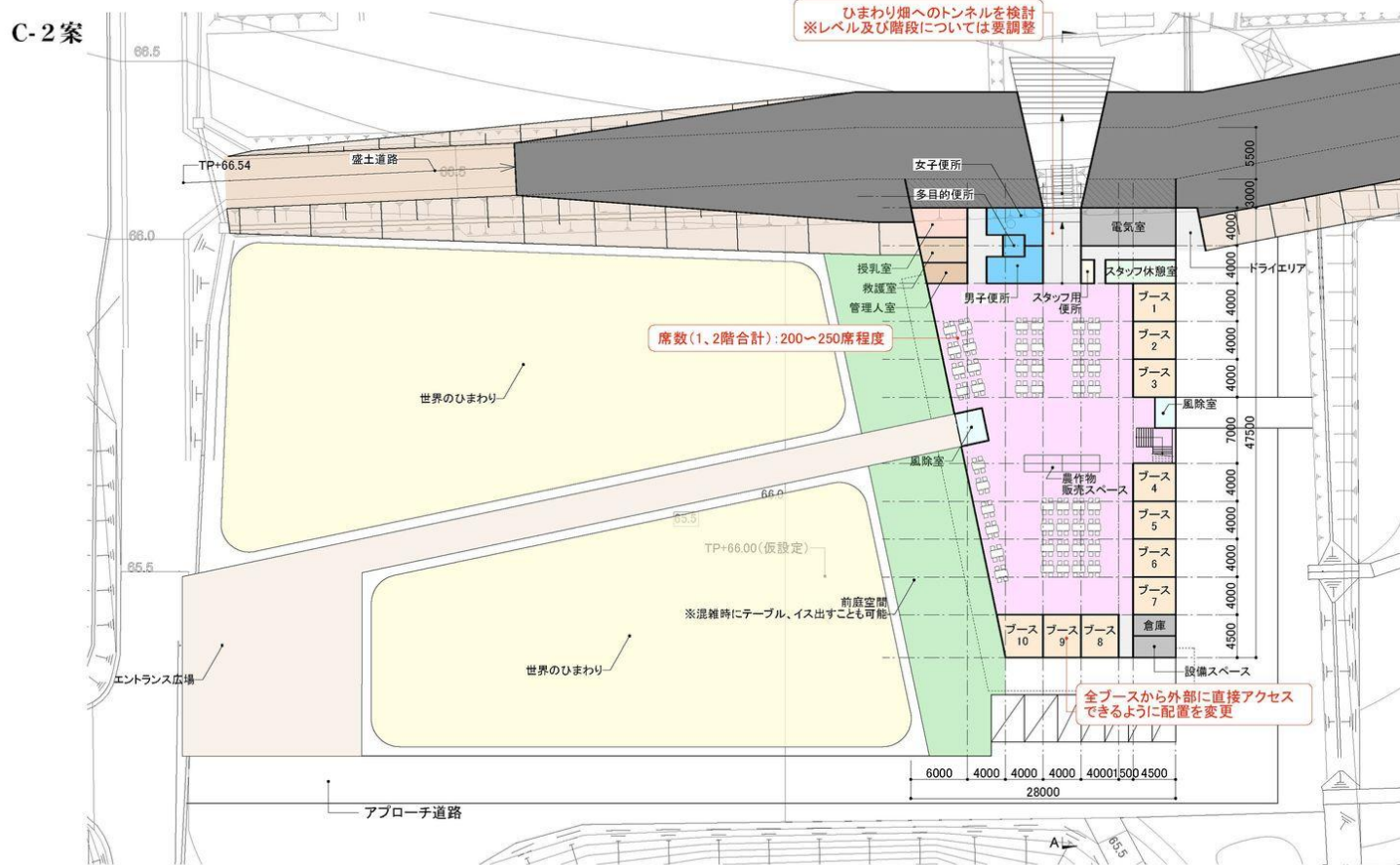
＜芝生広場に関して＞

- 1) 夏季以外の時期も建物と芝生広場を一体的に使えることで活用方法が広がるので、世界のひまわりと芝生の位置を入れ替えた方が良い。
→【対応方針】入れ替える方針で検討。

＜前回協議会のC案＞



C-2案



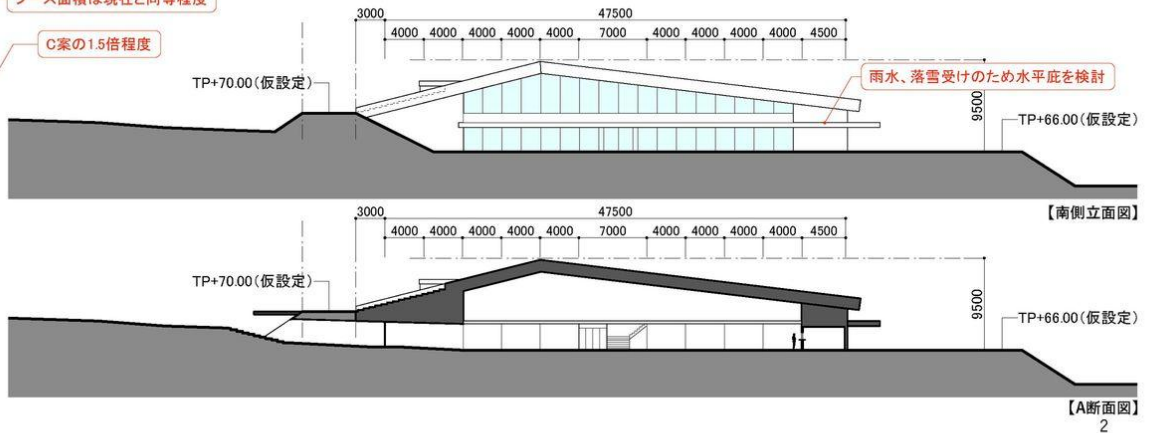
床面積表

室	現在の観光センター		前回協議会C案		C-2案	
	面積(m2)	備考	面積(m2)	備考	面積(m2)	備考
サービスエリア	店舗ブース	246.9 17.49m2×10+18.0m2×4	200.0 20.25m2/箇所が基本	182.1 18m2/箇所が基本	182.1 18m2/箇所が基本	
	飲食等スペース	890.4 アリーナ部分	482.2 1階農作物販売スペース含む	648.5 1階農作物販売スペース含む	648.5 1階農作物販売スペース含む	
	利用者用便所	17.5 男子:小2/大1、女子:大2	68.7 2階	178.5 2階	178.5 2階	
	授乳室	9.0	31.5 器具数イメージは図面参照	44.0 器具数イメージは図面参照	44.0 器具数イメージは図面参照	
バックヤード	管理入室	28.1	9.5	10.0	10.0	
	スタッフ休憩室	28.1	27.0 10人程度同時利用想定	18.5	18.5	
	スタッフ用便所	0.0	4.5	3.5	3.5	
	教護室	0.0	10.8	13.6	13.6	
その他	設備室	0.0	62.8 電気室、設備スペース等	50.1 電気室、設備スペース等	50.1 電気室、設備スペース等	
	倉庫	9.0	4.5 収納スペース	10.1 収納スペース	10.1 収納スペース	
	風除室	17.5	20.0	17.7	17.7	
	廊下	0.0	61.1	99.8	99.8	
合計	1,246.5		996.0		1306.4	

※図面は全てS=1/500

ブース面積は現在と同等程度

C案の1.5倍程度



■ ひまわりの里の上から見た景色



■「観光交流センター（仮称）」※南側（近景）



■「観光交流センター（仮称）」※南側（遠景）



■ 東側（道路）から見たひまわり畑と「観光交流センター（仮称）」



■ 展望デッキ（盛り土をした道）とトンネル



■「観光交流センター（仮称）」からひまわり畑に抜けるトンネル



■「観光交流センター（仮称）」屋上から見るひまわり畑



ひまわり畑の見え方・体験について

01 国道からの見え方

ひまわり畑が視認でき、建築は景観を阻害していない



03 観光交流センター入り口付近からの見え方

世界のひまわりの列植の奥に観光交流センターが見える



02 駐車場入口（現観光センター付近）からの見え方

ひまわり畑が全面に見え、観光交流センターは屋根だけがひっそりと見える



04 世界のひまわり付近からの見え方

ひまわり畑を両脇に見ながら誘われるように観光交流センターにアプローチする



05 ひまわりトンネルの見え方
観光交流センターからひまわりトンネルを通して、額縁のように切り取られたひまわり畑にアプローチする



06 観光交流センター2階からの見え方
2階からはダイレクトにひまわり畑にアプローチする



07 観光交流センターの屋上テラスからの見え方
盛土デッキもひまわり畑への眺望を阻害することなく一面ひまわり畑の中で食事などをしながら滞在できる



08 上のひまわり畑からの見え方
観光交流センターはひまわり畑の中にひっそりと佇むように配置されている









「観光交流センター（仮称）」に係る事業費・財源などの試算

総事業費（概算）

「観光交流センター（仮称）」整備費

建設事業費 約1,000,000千円

※建物建設費、一部外構整備費などを想定



周辺整備費

道路・駐車場等整備費 約400,000千円

※既存観光センター解体撤去費、関連道路整備費（展望デッキを含む）、屋外トイレなど付帯施設整備費を想定



合計 約1,400,000千円

左の財源

国交付金

地方債
（辺地債）

50%

50%

後年度の負担額
約11,700千円/年

【参考比較】

✓現在の「観光センター」を
当分の間使用すると仮定
した場合



損傷が激しいため大規模
な修繕工事が必要
（屋根防水・シャッター補修など）

概算修繕費
200,000千円強



※国の補助制度が利用できない
ため、すべて、町の負担となる
（新築の方が町の負担が少ない）
※仮に修繕工事を行ったとしても、
老朽化が激しいため、早晩、取り
壊し（新築）工事を実施しなけ
ればならない可能性が高い。

【留意事項】

- ・上記整備費は、建物面積や構造、機能等が変動した場合は、増減する可能性がある。
- ・今後、人件費や資材の高騰により、経費が上振れする可能性がある。
- ・上記経費には、設計費（基本設計、実施設計等）は入っていない。これらについては、国の補助制度等の対象になる可能性もある。
- ・国の交付金は、現行の地方創生関連の補助制度（地方創生拠点整備交付金など）の活用を想定している。今後、国の補助制度の改廃、補助率の変更、採択の有無などにより、前提条件が変わることも考えられる。

「観光交流センター（仮称）」を含むひまわりの里の今後の運営（案）

運営（整備）の目的

- ①「交流人口」（ひまわりまつり来訪者、ひまわりまつり以外の体験観光客、臨時的なイベント参加者など）を拡大し、まちの経済の活性化や、「関係人口」の創出・拡大につなげていく。
- ②「関係人口」（都市部等の民間企業、大学生、札幌圏等道内から町に関わる人など）の入口となり、町民と関係人口との交流や、協働でのプログラム提供の場となる。
- ③まちの子どもたち（小学生、中学生、高校生など）の、社会とのつながりや、生き抜く力やスキルを学ぶ機会を提供する。
- ④“世界でここだけの体験や価値”を提供する「ひまわりの里」の、シンボル（例：東京ディズニーランドにおけるシンデレラ城）として位置づけ、発信の拠点となる。

そのために必要な機能

1

飲食

ここでしか
食べられない

2

物販

北竜町固有の
特産物

3

快適な 居場所

子どもから
高齢者まで

4

アクティビティ の提供

通年を通じた
魅力ある体験

5

子どもの 学びと交流

民間や専門人材
との創造ラボ

「観光交流センター（仮称）」を含むひまわりの里の今後の運営（案）

- 例えば、以下のような機能や、サービス、商品などが考えられる
（現在、既に提供されているもの、今後検討するものなどを例示として列挙）

1

飲食

ここでしか
食べられない

- ✓ ひまわりソフト
- ✓ ひまわりキーマカレー
- ✓ 黒千石うどん
- ✓ 黒千石カレー
- ✓ ひまわりコーヒー
- ✓ ひまわりカットすいか
- ✓ ひまわりメロンシャーベット
- ✓ ひまわりおやき

など

2

物販

北竜町固有の
特産物

- ✓ ひまわりライス
- ✓ ひまわりライス加工品
- ✓ 黒千石うどん
- ✓ 黒千石カレー
- ✓ ひまわり油加工品
- ✓ ひまわりすいか
- ✓ ひまわりメロン
- ✓ ひまわりサブレ
- ✓ ひまわり雑貨

など

3

快適な 居場所

子どもから
高齢者まで

- ✓ 涼しい日陰
- ✓ 眺めの良いテラス・イス
- ✓ 快適な授乳室・トイレ
- ✓ 可変性のある空間・室内
- ✓ イベントができる空間・設備
- ✓ コワーキングスペース・携帯充電スポット

など

4

アクティビティ の提供

一年を通じた
魅力ある体験

- ✓ 体験プログラムの提供・デスク
- ✓ 夜間のライトアップ
- ✓ 臨時的なイベント・マーケット
- ✓ ライブ・配信
- ✓ 屋内の遊び場
- ✓ 雪のアクティビティ・遊び場

など

5

子どもの 学びと交流

民間や専門人材
との創造ラボ

- ✓ 民間企業人材との共創プログラム
- ✓ デジタル人材の育成
- ✓ 特産品開発・販売・PR
- ✓ 学びのプログラム提供
- ✓ 大学生など関係人口との交流

など

ひまわりの里の“持続・発展システム”の提案

持続発展のための運営形態の検討とその体制

- ① **現在の運営形態**（例：ひまわりの里の指定管理→NPOひまわり、ひまわりまつり運営→主に観光協会、遊覧車など個々のアクティビティ→各事業者・団体が個別に実施・料金徴収など）**については、可能な限り整理・見直し**を行う。
- ② 「観光交流センター（仮称）」の専有部分については、町内事業者を優先（使用）し、その他の部分については、可変性や柔軟性のある利用が可能となるよう検討する。
- ③ ひまわりまつり以外の時期でも、イベントや多様なアクティビティを提供することで、**通年利用**とし、積極的に集客を行い、交流人口・関係人口の拡大に努め、ひまわりの里全体の売上げの向上と、ひまわりライスを始めとする特産品の販売拡大による、**農業者など町民全体の所得向上を目指す**。
- ④ 町内の労働力確保や、ひまわりの里を中心とした、北竜町全体での地域経済の活性化の観点から、ひまわりの里関連の運営、新たな事業や商品・サービスの企画、子どもの学び・交流などに関する事業については、**株式会社北竜振興公社が中心的に担っていく**。
※前述の「北竜ひまわりホールディングス（概念）」のとおり
- ⑤ 今後の検討にあたっては、新たなまちづくりや地方創生の観点（交流人口から関係人口へのつながり、関係人口をプールする取組、北竜町ブランドに基づいたプロモーション、子どもたちの学びやまちの未来を担う人材の育成、移住・定住の促進など）から、「ひまわりの里活性化協議会」を発展させた組織で、若い世代などを含む幅広い町民や、外部の専門人材などで構成する「**未来につなぐまちづくりプロジェクト町民会議**」において、**情報共有や意見交換、合意形成を行っていく**。

※必要に応じて、部会（もしくは、ワーキング・チームなど）を設けるなど、機動的に活動していく。

駐車料金及び入場料の徴収について

- ①料金徴収のハードル（準備、条例制定等の手続きなど）が低いのは、「駐車料金」と考えられる。
- ②但し、来訪者の低下や、費用対効果などを見極める必要がある。
→これらを検証するために、R7年度に実験的に検証を行うという選択肢もある。
（期間を限定し、イメージ低下につながらないような工夫が必要か）
- ③「入場料」については、②の効果（来訪者の反応や意見）を踏まえ、今後検討する。
- ④いずれにしても、本格的な料金徴収は、「観光交流センター（仮称）」の整備後で、来訪者に対して納得できる（便益の）説明と、価値の提供ができる段階からが望ましい。

北竜町らしいビジネスモデル（案）

- ①ひまわりまつり来訪者の“非常に高い満足度”と“町ぐるみでの取組に対する敬意”を踏まえた、「寄附」を促すしくみの導入。
→キャッシュレス（スマホ）でも寄附を受付
- ②ひまわりまつり以外でのイベントや、体験アクティビティの提供（事業者から）。
→売り上げに応じた収入
- ③「ひまわり」商品やロゴ等のロイヤリティ。
→新たな商品開発や、ロゴ等の提供による
- ④「ひまわりトンネル（仮称）」の感動体験。
→通過料or写真撮影など
- ⑤ひまわり畑の奥の部分を活用したビジネス。
→自動運転モビリティによる周遊、ひまわりの花の持ち帰り、ひまわり畑の中のカフェなど。

その他のビジネスモデルを、今後、幅広に検討していく。

その他ひまわりの里全体の整備や取組の方向性について

ひまわりの里全体の整備について

道の駅/北竜温泉

- ✓ **宿泊と、リラクゼーション機能を充実・強化するために、「道の駅/北竜温泉」の大規模改修を実施し、ひまわりの里全体の魅力向上を図っていく。**
→その際は、近隣の道の駅との差別化を図り、競争力の高い価値を提供する

※参考:道の駅「つきがた275」が、2024年9月リニューアルし、1ヶ月間で10万人が来訪。道の駅「つるぬま」は、2027年春オープン予定。

中学校跡地

- ✓ **校舎や体育館などについては、ひまわりの里全体の集客力や、価値の向上を図るために、活用策を検討していく。**
→例:関係人口の拡大のための、シェアオフィス、ワーケーション、体験特化型滞在施設、研修・合宿施設 など

取組の方向性について

- ✓ 国が掲げる『**地方創生2.0**』の重要政策分野に合わせて取組を進めていく。
 - ・**「付加価値創出型の地方経済」**
 - 北竜町でしか提供できない体験観光
 - 「観光交流センター（仮称）」を舞台にしたイノベーションの創出、特産品開発
 - ・**「デジタル・新技術の徹底活用」**
 - インバウンドに対応したキャッシュレス決済の導入、AIを活用した接客サービス、マーケティング・分析、プロモーション
 - NFTなど、ブロックチェーン技術の活用
- ✓ 民間企業との連携、企業版ふるさと納税の活用、クラウドファンディングの実施
- ✓ **「世界で北竜町だけ」の価値の提供と、オンリーワン戦略の徹底**
- ✓ **未来へ続く「ひまわりの里」の実現に向けた各種取組**

4

未来へ続く「ひまわりの里」

10数年後の北竜町 「ひまわりの約束」

町の人口 1,600人

関係人口のプール 10,000人

ひまわりまつりの来訪者 30万人/年

「観光交流センター（仮称）」通年利用者 延10,000人



未来の北竜町「ひまわりの里の中の様々なシーン」

展望デッキから
見渡す景色は
言葉にできない
ひまわり時間

笑顔が溢れ
子どもの声が
あちこちから
聞こえてくる

中高生の
サードプレイス
観光交流センターは
新しい価値の創造や
学びが生まれる
まちの「ラボ」

商いの
チャレンジや
仲間と一緒にの
楽しい活動が
町外の専門家や
企業と交流しながら
生まれてくる

ひまわり畑と
道の駅を結ぶ
小径は
ちょうどいい
散歩道

ここでしか
食べられないもの
買えないものが
たくさんある

子どもたちが
考えたお土産が
飛ぶように
売れている

真っ白な
雪景色の里を
駆け廻る
スノーモービル

日陰のベンチに
座ってのんびり
ひまわりを眺めて
いる外国人の
カップル

北竜温泉の
レストランは
昼も夜も大賑わい
湯上がりの町民と
町外から来た若者
が語り合う

ひまわりの里
の感動は
まちの人たちへの
感謝に変わり
応援の気持ちが
寄附につながって
いる

ライトアップ
された里の風景は
新緑でも真冬でも
町外の人にも
大好評

今後の道のり

✓ ひまわりの里基本計画2024で
目指す姿や内容の共有

✓ 大まかな財源対策や進めていく
体制などの検討

✓ 戦略的プロモーションの始動

R7

STEP1

R8～R9

STEP2

R10～R11

STEP3

R12～R13

STEP4

R14～

STEP5

✓ 「観光交流センター」及び
関連道路（展望デッキを含
む）駐車場などの周辺整備

✓ 通年利用に向けた準備と
試行

✓ アジャイル（改善・進化を
繰り返す）な手法で、まち全
体で取組を続けていく

✓ 道の駅などの全体整備

✓ ハード関連は、基本設計及び実施設
計を行う

✓ ソフト事業部分は、持続させていくし
くみづくりや、運営体制などの企画・検討

✓ ひまわりの里を中心とした北竜町ブ
ランドの、プロモーションの本格展開

✓ 関係人口づくり、子どもたちとの価
値創造など、未来に向けたまちづくりの
本格化